

福祉・社会事業史

障害・特別支援・養護・医療・社会教育

資料・研究書

2024.5

学術資料出版

大空社出版

www.ozorasha.co.jp

資料に命のちを
作品に心こころを
形にして伝える。

TEL:03-5963-4451 / FAX:03-5963-4461 東京都北区中十条 4-3-2 (〒114-0032) eigyo@ozorasha.co.jp

私の記録、家族の記憶 (2)

ケアリーヴァーと社会的養護のこれから

少年行刑の歴史からみる

知的障害者福祉の萌芽 (3)

京都「特別学級」成立史研究 (4)

史料と論究

「劣等児」「特別学級」の思想と実践 (5)

戦前日本社会事業調査資料集成・別巻 (6)

調査資料文献／概要

明治＝岩手の医事維新 (7)

医師・三田俊次郎の挑戦

高度経済成長と社会教育 (8) <2014.1刊>

日本工業博物館史の研究 (10) <2013.10刊>

近代社会教育における権田保之助研究 (11)

娯楽論を中心として

*

日本における女子体育教師史研究 (12)

絆を伝えるソーシャルワーク入門 (12)

社会福祉・児童家庭福祉・相談援助のサブテキスト

雑誌『養護 / 学童養護』 (12)

私の記録、家族の記憶

ケアリーヴァーと社会的養護のこれから

阿久津美紀 著

[大空社出版 2021年8月]

2022年度・日本社会福祉学会
学会賞・奨励賞(単著部門)受賞

なぜ〈記録〉が「社会的養護」にとって 重要なキー概念なのか？

史資料の記録・保存・利活用を研究する〈アーカイブズ学〉の知見で見えてくるもの、イギリス、オーストラリア、韓国と比較した日本の現状は――

〈記録〉にアクセスする側(当事者)と〈記録〉作成・管理に携わる側、双方にとって「公正・公平」な環境をいかに構築するか、施策はどうあるべきか……。

(主要目次 * 詳細目次はホームページに掲載)

序章 社会的養護に関する記録をとりまく課題

世界と日本の研究動向と状況/ケアリーヴァーにとっての社会的養護における記録/社会的養護の記録とは

- 1 日本の社会的養護に関する記録の管理：児童相談所と国立・民間の児童福祉施設を事例に
記録の中の個人情報をめぐる諸課題：記録の保存年限の延長と利活用
- 2 家族の記憶とケアリーヴァーの記録：イギリス、オーストラリアにおける実践から
イギリス（ガスキン裁判/クリアマーク CLEARmark）/オーストラリア（Who Am I? プロジェクトとレコードコンティニュームモデルなど）
* 当事者団体の活動からの学びと日本のこれから
- 3 イギリス（スコットランド）における歴史的な虐待調査と組織の記録管理：2011年公文書（スコットランド）法に与えた影響
ショーレポート/新たな公文書法とレコードマネジメントプラン * 児童虐待調査から見た組織の記録管理の課題
- 4 オーストラリアにおける性的虐待調査の展開と守られるべき子どもの権利：レコードキーピングが児童虐待の抑止力になるのはなぜなのか
王立委員会調査/オーストラリアアーキビスト協会/子どもの権利のためのナショナルサミット * 王立委員会調査が専門家たちに与えた影響
- 5 日本の新たな社会的養護政策の展開と記録管理：韓国の養子縁組に関する記録管理政策との比較を手掛かりとして
養子縁組に関する記録管理と当事者のアクセス * 記録管理体制を増加する特別養子縁組にどう備えていくのか
- 6 社会的養護におけるアーキビストの専門職としての役割：公平で、公正な利用者の支援とは何か
ICAのアーカイブズへのアクセスの原則とガイダンス/現場実践における障壁とジレンマ/専門家、当事者、施設の様々な観点から見たアクセス/アーキビストの専門職としての役割 * 社会的弱者に関する記録とそれに関わる専門職

終章 課題と展望

1. ケアリーヴァーのための記録への安定したアクセスを目指して（社会的養護における記録と記録管理の役割/個人情報の開示と公開（ケアリーヴァーと第三者の間）/専門職が果たすべき役割（ライフストーリーワーク/記録に関わる専門職の重要性）
2. 社会的養護における記録とアーキビストの役割（記録管理の年限/ケアリーヴァーが記録にアクセスできる年齢と知る内容/専門家どうしの連携/記録管理システムの構築・整備へ）

参考文献 索引

ケアリーヴァー care leaver

= 社会的養護で養育された経験をもつ当事者

ケアリーヴァーのための“記録 records”への安定したアクセスを目指して、現状の課題を明らかにし将来へ向けての提言を示す。社会福祉・社会事業分野とアーカイブズ学との有機的連繋、初の成果。

キーワード

アイデンティティ、プライバシー、records、児童相談所、児童福祉施設、ケア記録、レコードコンティニュームモデル、スコットランド、児童虐待、レジデンシャルスクール、チルドレンズホーム、アーキビスト、レコードマネジメントプラン、性的虐待、子どもの権利、養子縁組、国内養子・国際養子、アクセス支援、国際社会事業団 ISSJ、特別養子縁組、ICA、アーカイブズへのアクセスに関する原則、母子保護施設レーベンスボルン、社会的弱者、子どもの権利ノート・育ちアルバム、個人情報開示公開、ライフストーリーワーク、記録管理年限、記録アクセス年齢・内容、記録管理システム構築・整備



挿画・佐藤仁美「ただひかりさす」

A5判・上製・238頁・カバー

978-4-908926-20-4

定価（本体2,700円＋税）

【著者】（あくつ・みき）

（本書刊行時）目白大学人間学部児童教育学科助教。学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程単位修得退学。博士（アーカイブズ学）。

少年行刑の歴史からみる 知的障害者福祉の萌芽

末松 恵 著

[大空社出版 2022年3月]

明治後期～昭和初期
浦和監獄川越・熊谷分監
八王子少年刑務所

少年監獄・刑務所で認識された
障害者に対する処遇方法の実態を詳細に描き
更生保護施策における新たな支援枠組みを
〈福祉と司法分野との連携・協同〉
という今日的課題から捉え直す
独創的ユニークな研究。

近代初頭の少年行刑・感化矯正のもとでなされた知的障害者処遇には、処罰にとどまらない保護的・教育的な視点がみられ、ここに知的障害者福祉の萌芽の状況をとらえることができる。福祉と司法の連携・協同が模索される現在、福祉的な視点と司法的な視点とが未分化であった近代初頭の知的障害者処遇からは、いかなる示唆が得られるであろうか。(序章より)

キーワード

知的障害者福祉 障害児教育 児童福祉
社会福祉 更生保護・感化教育
監獄(幼年監獄)・懲治場精神病者
精神医学 特別学級・低能児学級・治療
教育 処遇の実際 処遇方針 職員体制

(主要目次・概要 *詳細目次はホームページに掲載)

序章 知的障害者福祉の歴史と少年行刑

第一章 近代初頭の監獄における精神病者の存在

- 1 明治初頭における監獄への精神病者の収容(癲癩人 瘖啞者 監獄別房 懲治場)
- 2 精神病者処遇の経過:「身体保全」言説の登場と『獄務概則』の規程 精神病監の設置
- 3 精神病者における知的障害者の概念的な分離
- 4 幼年監獄の建設と教育処遇の推進

第二章 川越分監・熊谷分監懲治場における幼年者処遇と知的障害者

〈第1期〉1902(明治35)～1908(明治41)

- 1 浦和監獄川越分監懲治場:収容児童 国家の役割 精神医学・心理学・生理学への期待
- 2 浦和監獄川越分監・熊谷分監:処遇の実際 「薄弱ナル児童」 補助級(低能組)
- 3 精神病医学者による熊谷分監収容者の調査
- 4 懲治場における知的障害者処遇の特徴

第三章 川越分監特設少年監における少年処遇と知的障害者

〈第2期〉1909(明治42)～1921(大正10)

- 1 刑法改正と監獄法制定 障害児調査・特別学級の設置・治療教育の実践・「低能児学級」設置
- 2 少年処遇の概要:年次統計書『少年受刑者ノ統計及処遇一斑』の編纂と知的障害者の把握
- 3 処遇の経過・展開:「低能児ノ取扱」「低能児観察表」「低能者特別教授」
- 4 「少年受刑者ニ関スル特殊研究」における低能者研究
- 5 川越分監特設少年監における知的障害者処遇の特徴

第四章 川越少年刑務所における少年処遇と知的障害者

〈第3期〉1922(大正11)～1925(大正14)

- 1 1922(大正11)年少年法の制定
- 2 知的障害者の数 「心神耗弱者」の八王子支所への分離
- 3 監獄事業における知的障害者施策に関する言説と知的障害者処遇の位置づけ
- 4 川越少年刑務所における知的障害者処遇に関する考察

第五章 八王子少年刑務所における知的障害者処遇

〈第4期〉1926(大正15昭和元)～1929(昭和4)

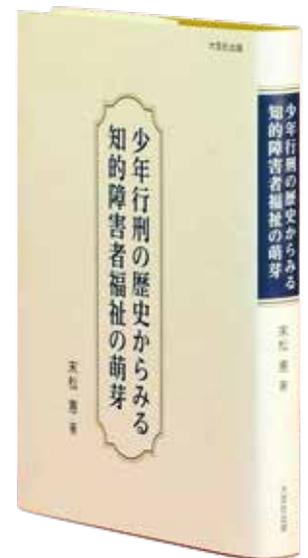
- 1 八王子少年刑務所の概要
- 2 処遇の概要(統計資料 処遇方針 処遇の実際)
- 3 知的障害者の身体・精神の変化(収容時/後の身体・精神の変化:智能点数、精神状態)
- 4 八王子少年刑務所における知的障害者処遇に関する考察

終章 少年行刑の歴史における知的障害者福祉の萌芽(まとめ)

・処遇上に見出された福祉的な価値理念(「国民トシテ」「社会ニ立ツ」者としての知的障害者「個人」の認識と把握 障害による困難状況の「社会」との関連認識 保護と養育という考え方)
・少年監獄における知的障害者処遇の社会的意味(「国民統合」政策下における知的障害者処遇「社会順応」の意味 排除と統合の両義性 医師による分類と定義 近代社会の形成における対象化・同一化過程)

少年行刑と知的障害者福祉 略年表 注(33頁) / 参考文献 / あとがき / 索引

* 図表多数



A5判・上製・370頁・カバー
978-4-86688-234-5

定価(本体4,300円+税)

【著者】(すえまつ・めぐみ)
社会福祉法人はぐるまの会
生活支援員(1993～2013)、
現在・評議員、はぐるま農園
サポーターズ所属。日本女子
大学学術研究員、社会福祉学
博士。

京都「特別学級」成立史研究

史料と論究

玉村公二彦 著

[大空社出版 2021年2月]

「特別学級」その発想の端緒は？

設置と運営を担った人々の
模索と苦闘の跡を語る
稀有な〈実践〉史料を 一挙復刻

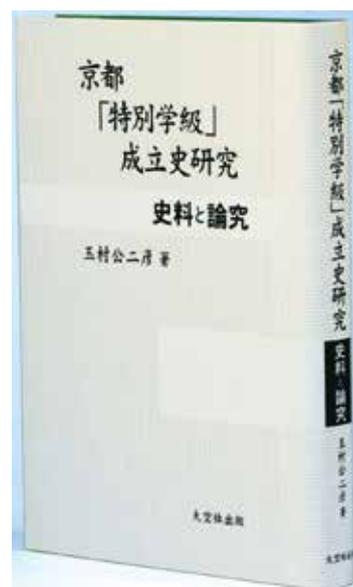
明治期から

障害児者の教育・保護事業に

先駆的に取り組んでいた地、京都――

戦前戦中期に「特別学級」の設置と実践を旺盛に展開したのも京都だった。

小学校・児童の「特別学級」実践と模索の跡、現場を担った教師や京都市関係者の残した稀少で貴重な史料を一堂に会し、読み込むことでその現代的意義を確認し、後世への遺産として残す。



B5判(182×257mm)
上製・640頁・カバー

ISBN978-4-908926-53-2

定価(本体 17,091円+税)

【著者】(たまむら・くにひこ)

京都女子大学教授、奈良教育大学名誉教授。著書に『障害児の発達理解と教育指導：「重症心身障害」から「軽度発達障害」まで』（三学出版 2005年）、『オーストラリアにおける「学習困難」への教育的アプローチ』（共著、文理閣 2006年）など。

初の京都「特別学級」実践概史

第I部 京都における「特別学級」の形成と展開

序章 史料から浮かび上がる歴史

第1章 京都における「特別学級」設置前史(明治期)
脇田良吉の淳風小学校・「特殊教育」提案・白川学園

第2章 大正デモクラシー期における「特殊児童調」と初めての「特別学級」設置
藤井高一郎と斎藤千栄治

第3章 大正・昭和初期における「特別学級」実践の模索
京都市崇仁尋常小学校と有馬良治の模索

第4章 京都府師範学校「停滞児学級」と『停滞児教育研究』
上原昭平と渡邊昌司

第5章 斎藤千栄治の提言と京都市における「異常児」施策の発展
『学齢児童に関する調査』『児童保護に関する調査』

第6章 崇仁小学校における能力別学級編制と「特別学級」の再興
高宮文雄と京都市特別児童教育研究会

第7章 京都市立養正尋常高等小学校「特別学級」と田中寿賀男

第8章 滋野尋常小学校「第二部学級」と実践の発展
田村一二の「特別学級」実践の展開

*詳細目次はホームページに掲載

第II部 史料編

京都における「特別学級」の展開と実践

A. 京都市特別児童教育研究会と「特別学級」の展開

A1 『異常児教育』創刊号 1933(昭和8)年7月

A2 『異常児教育』第2号 1933(昭和10)年6月

A3 『異常児教育』第3号 1937(昭和12)年4月

A4 斎藤千栄治「異常児教育の体験・精神薄弱児の教育」
(『少年の保護』79、朝日新聞社会事業団 1937(昭和12)年6月)

A5 『異常児教育』第4号 1939(昭和14)年4月

A6 『勿忘草』1 1942(昭和17)年3月

A7 『三谷隼雄』京都市に於ける精神薄弱児を対象とする養護学級児童検診報告第一報』1943(昭和18)年5月

A8 『勿忘草』2 1943(昭和18)年9月

B. 京都市滋野尋常小学校「特別学級」の実践

B1 『精神薄弱児の作業を主としたる教育』1929(昭和4)年2月

B2 田村一二「精神薄弱児(劣等児低能児)の凶画」1934(昭和9)年9月

B3 『精神薄弱児の生活指導』1936(昭和11)年11月

B4 田村一二「鉄は切れる」1941(昭和16)年5月

B5 『田村一二氏講演「教育精神」』1942(昭和17)年10月

1929-1943

147-366

*は、本書で初めて復刻収録

第II部 史料編 ◆貴重・歴大

史料 13点(初の復刻9点を含む)
収録原本頁数約870頁
A: 約380頁 B: 約490頁

*本書に登場する
主な教育実践者・団体・機関・学校 →

脇田良吉 藤井高一郎 斎藤千栄治 有馬良治 上原昭平 渡邊昌司
池田太郎 高宮文雄 伊東茂光 中嶋源三郎 田中寿賀男 元山清七
田村一二 京都市特別児童教育研究会 淳風小学校 白川学園
七条小学校 桃園小学校 崇仁小学校 京都府師範学校附属小学校
京都市社会課 京都市児童院 養正小学校 滋野小学校

「劣等児」「特別学級」の 思想と実践

阪本美江 著

[大空社出版 2021年5月]

2021年度・日本特別ニーズ
教育学会文献賞受賞

教育と思想、教育と政策・制度、教育と社会
その中の児童と家庭と、目の前の現実に
正面から立ち向かう教師たち ...

“奈良県”から見えてきた
大正末から昭和初期日本の教育“現場”の実態を
一次資料で浮き彫りにし、課題を鮮明化する。

当時の「特別学級」や「劣等児」を研究することは、今日の個性尊重教育や能力別学級等への何らかの示唆となり得るのみならず、当時の教師陣が創意工夫をしながら「劣等児」「救済」に尽力した形跡を明らかにすることで、今の教育や教師の在り方そのものを問い直すきっかけにもなるのではないかと考え、「特別学級」史研究の意義を強く感じたのである。（“はしがき”より）

(主要目次 *詳細目次はホームページに掲載)

序章 実態の把握から課題の設定へ

【「特別学級」設置の第一・第二隆盛期／「特別学級」の対象、形態、目的／奈良県の実態／「劣等児」「低能児」とはどのような児童たちか】

《第1部》 戦前における「特殊教育」政策と「劣等児」観

第1章 大正デモクラシー期の文部省関係者の「特殊教育」観
【青木誠四郎／乗杉嘉壽】

第2章 戦前における「劣等児」「低能児」認識

【脇田良吉(乙竹岩造や吹米の影響)／東京高師附小(樋口長市、小林佐源治、黒沼勇太郎)】

《第2部》 大正末期から昭和初期における文部省全国調査にみる「特別学級」の全国的傾向と文部省「推奨校」治道尋常高等小学校の実態

第3章 大正末期から昭和初期における文部省全国調査の概要
1924年発行『特別学級編制に関する調査』に着目して

第4章 文部省「推奨校」としての治道尋常高等小学校

《第3部》 奈良女高師附小訓導齋藤千榮治の「劣等児」「低能児」論とその展開：京都市の小学校における齋藤の理論や実践の継承に着目して

第5章 奈良女高師附小「特別学級」の開設 【真田幸憲】

第6章 「特別学級」の概要と齋藤の「劣等児」「低能児」論

第7章 京都市の小学校における「特別学級」の実践
田村一二との関係に着目して

《第4部》 桜井尋常高等小学校の「特別学級」と「新教育」

第8章 桜井小学校の「新教育」

【ドルトン・プラン／芸術教育、綴方教育、映画教育、労作教育／全国初等教育研究会】

第9章 西久保奈良石における「劣等児」概念と「低能児」概念

第10章 桜井小学校における「特別学級」の実態と思想
【「特別学級」の編制／分団教育】

終章 「特別学級」史研究が問うものとは

戦前「劣等児」「特別学級」関連年表／引用・参考文献／索引

キーワード

文部官僚 奈良・東京・京都 障害児教育個人と国家 遺伝と優生学 格差(教育、学力、経済、社会) 知能検査 個性尊重 綴方・読方教授 労作教育 映画教育 学級編制教育史 公教育 新教育 特別支援教育 精神薄弱児(者) 近代史 大正デモクラシー思想 教育行政・政策 養護

豊富な一次資料で解明
浮かび上がる実態

西村拓生

(奈良女子大学教授(2016年))

阪本さんの研究は、奈良県という地域に着目して、これまで研究対象とされてこなかった一次資料を豊富に用いて当時の実態を具体的に解明する、という点で「劣等児」「特別学級」史研究に重要な貢献をなすものである。また、青木誠四郎と乗杉嘉壽の「劣等児」観の検討や奈良女子高等師範学校附属小学校と桜井尋常小学校における「新教育」の理念と「特別学級」実践の検討から浮かび上がった、「新教育」と「劣等児」「特別学級」とのアンビバレントな関係は、両者の関係をめぐるこれまでの学会での議論に、思想研究の視点から大きな一石を投じるものである。(本書“序”より)



A5判・上製・280頁・カバー
978-4-908926-52-5
定価(本体4,000円+税)

【著者】(さかもと・よしえ)

2014年奈良女子大学人間文化研究科博士後期課程修了(社会生活環境学専攻)。博士(文学)。2017年4月より大阪芸術大学短期大学部通信教育部保育学科特任教授。

*本書で取り上げられた主な校名・人名等

(奈良県) 奈良女子高等師範学校附属小学校
桜井尋常高等小学校
治道尋常高等小学校
奈良師範学校
(東京市) 東京高等師範学校附属小学校
林町尋常小学校
万年尋常小学校

青木誠四郎 齋藤千榮治 乗杉嘉壽
乙竹岩造 齋藤諸平 樋口長市
小原國芳 真田幸憲 ヘルバルト
笠原道夫 清水甚吾 脇田良吉
木下竹次 杉田直樹
黒沼勇太郎 関野嘉雄 京都市特別児童教育研究会
ゴダード 田村一二 文部省社会教育課
小林佐源治 デューイ

調査資料文献 / 概要

社会事業・社会福祉調査資料文献 約1300点・1225頁
[戦前期 (明治後半期～1945年8月)]

かつてない規模・専門研究者執筆による文献案内!

【編集・執筆】 寺脇隆夫・大久保秀子・太田由加里・大友昌子・加瀬裕子・加登田恵子・田澤あけみ・月田みづえ・中村律子・西原香保里・西村みはる・野口典子・林(土岐)祥子・藤崎宏子・宮崎(松岡)英子・山田(村松)知子・山田祐子

- * 解題項目 ①資料の概要 ②資料の特徴 ③調査の概要 ④調査の内容
- ⑤集計の特徴 ⑥資料の所蔵 ⑦備考

調査・研究はこの1冊から!

残部僅少



A5判・上製・函入

1225頁

978-4-908926-64-8

定価(本体 34,000円 + 税)

分類区分一覧

* 98区分で資料を分類

貧困・困窮者/救済・救護
 浮浪・ルンペン・行路病者
 木賃宿/公的宿泊所(宿泊者)
 屑拾い・パタヤ/残飯・残食物
 水上生活者(水上児童含む)
 貧民窟・スラム・不良住宅地区
 不良住宅地区改良事業/改良後の生活状況
 住宅困窮・住宅難/家賃問題
 公的住宅(公営住宅・同潤会住宅)
 生計・家計状態
 救療/無料・軽費・実費診療
 冷害・凶作
 産業災害・鉱工業災害/戦争災害
 廃兵・傷病兵・傷痍軍人/遺家族援護
 営利職業紹介業/職業紹介事業
 失業者・自由労働者(日稼・日雇)
 婦人労働(女工・職業婦人)
 物価騰貴と米騒動/経済保護事業
 公設市場
 営利質屋業/公益質屋
 公設食堂/公衆浴場
 内職・副業
 授産事業・授産施設
 隣保事業・セツルメント事業
 農村社会事業・農山漁村の生活
 乳児死亡/出生・死亡状況
 妊産婦・乳幼児保健
 児童の生活状況・実態/私生児・家出・浮浪・自殺
 児童保護事業(概要・施設一覧)
 児童保護活動/児童相談/一時保護
 児童遊園・児童公園/遊び・玩具
 欠食・栄養不良/給食・栄養補給
 虚弱・病弱児/林間学校・転住施設
 障害児童(特殊・異常児含む)
 保育・託児所(常設)
 工場鉱山の保育・託児
 農繁期(季節)保育・託児
 棄児/児童虐待/親子心中
 育児・養育事業(育児院・孤児院)

あらゆる研究領域に有効な道案内

乳児昼夜保育(乳児院)
 里子・里親/家庭養育委託
 貧児教育・不就学問題/就学奨励
 児童労働・児童の就業状況
 小卒児童の進路・希望/就職状況
 少年職業紹介・就職後指導
 不良児・非行問題一般
 感化院・少年教護院/感化事業
 少年院・少年審判所/保護少年
 幼年監獄・少年受刑者
 母子保護/母子ホーム(父子含む)
 女中・派出婦・家政婦
 芸娼妓・酌婦紹介業(公周施業)
 人身売買・身売
 娼妓・娼婦/廢娼運動
 女給・ホステス
 養老事業・養老院/老衰者
 障害者(盲・不具・痲疾)
 自殺
 精神病
 癩病(ハンセン氏病)
 結核
 花柳症・性病
 麻薬など薬物中毒
 出獄人・免囚保護/司法保護事業
 内地居住の朝鮮人
 社会保険(健保・年金・国保)
 社会事業(施設)一覧・名鑑類(全国・地域)
 社会事業概要・要覧類(全国・北海道・東北
 /東京・関東/中部・北陸・東海/関西/中
 国・四国/九州・沖縄)
 都市社会事業/大都市比較
 社会事業統計調査関係
 社会事業行財政
 社会事業奨励助成/共同募金/寄附金
 委員制度(方面委員・救護委員など)
 社会事業(施設)の連絡団体
 社会事業(施設)の状況全般(視察報告/年
 表)
 社会事業(施設)の経営/私営・公私問題
 社会事業(施設)の入所・利用者/処遇
 社会事業(施設)の入所・利用者/処遇
 社会事業(施設)職員/功労者
 社会事業(施設)の職員養成
 社会事業全般/年鑑

経済・社会・思想・民衆・生活・医療・教育・地方・労働・貧困・災害

明治岩手の医事維新

医師・三田俊次郎の挑戦

三田弥生 著
社会福祉法人岩手和敬会理事

[大空社出版 2018年8月]

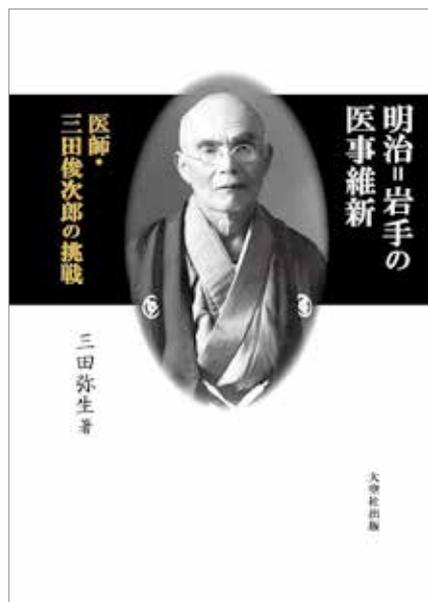
何よりもまず「医療」に維新を！

僻遠の地に生きる人々の
健康で幸福な生活を構築するために
全精力を注ぎきった明治人の生涯

み た し ゅ ん じ ろ う

三田俊次郎

1863(文久3)～1942(昭和17)



A5判・上製・227頁・カバー
978-4-908926-54-9

定価(本体 2,400円 + 税)

ここに維新を
武士の魂で生き抜いた
明治の意地がある！

目次

第1話 幕末の盛岡藩に生まれる

- 1 義魏、榎山佐渡の切腹に立ち会う
- 2 盛岡藩の教導とキヨの家庭教育に育まれる

第2話 医学の道を志す

- 1 義正とともに新学校制度の小学生となる
- 2 中嶋家の養子となり、義正は学農社に学ぶ
- 3 県立岩手医学校にて修学する
- 4 御殿医三浦自祐の長女リサを娶る

第3話 内地留学を経て眼科医となる

- 1 帝国大学医科大学の河本重次郎の門下生となる
- 2 帰郷後、三田眼科医院を開設する

第4話 医療医事の改革に挑む

- 1 閉院の県立岩手病院の貸し下げを申し出る
- 2 岩手病院に看護婦養成所と医学講習所開設を目指す
- 3 医学生養成のため、三田医学奨励会を起ち上げる
- 4 岩手病院を譲渡され、私立岩手医学校を創設する
- 5 学生獲得に向け、医者の特典について講演する
- 6 後藤新平の衛生思想に啓発される
- 7 義正とともに原敬の選挙支援に加勢する
- 8 リサ、結核により死去する
- 9 教師の小泉テルを後添えに迎える
- 10 私立岩手医学校と作人館中学校閉校となる
- 11 中津川の大洪水により救護活動を行う
- 12 温泉療法のための温泉事業を断念する

第5話 医療・福祉・教育の道筋をつける

- 1 戊辰戦争殉職者五十年祭が挙行される
 - 2 救済の精神をもって社会事業を推進する
 - 3 女子教育のために岩手高等女学校を創立する
 - 4 学校設立に再び挑み、岩手医学専門学校*認可される
- *1947・昭和22年・岩手医科大学となり現在に至る

第6話 医事維新を貫く

- 1 義正の潔い死を悼む
- 2 医事維新の志士が逝く

(資料) 眼病者心得／主要人物生没年／三田俊次郎年譜

高度経済成長と社会教育

辻 浩 編

[大空社出版 2024年1月]

戦間期・占領期に次ぐ近代日本の大きな転換期「高度経済成長期」 (およそ 1955 ~ 1975 年)

大量消費社会で発生した諸問題、その中で諸地域で展開された社会教育の実践・理論・政策を追い、「権利としての社会教育」が追求された意味を再確認、これからの日本社会の課題解決のために新しい理論的・実践的提起を目指す。11人の研究者による共同研究。

■主なテーマ・論点■

- 1 高度経済成長期における住民の自己教育と、その政策面での展開はどのようなものだったか。
- 2 大量消費社会のただ中、社会教育の実践・理論はいかに当面する諸矛盾に取り組んだか。
- 3 「権利としての社会教育」が唱えられ追求された意味を再確認する。
- 4 日本の高度経済成長と社会教育のかかわりを歴史的に整理し、新興諸国の経済発展と人権保障のあり方を考える。



A5判・並製・244頁・カバー

ISBN978-4-86688-238-3

定価(本体 2,700円 + 税)

【編者】(つじ・ゆたか)

(刊行時) 名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授。[著書]『現代教育福祉論：子ども・若者の自立支援と地域づくり』(2017 ミネルヴァ書房)、『〈共生と自治〉の社会教育：教育福祉と地域づくりのポリフォニー』(旬報社 2022)、『地方自治の未来をひらく社会教育』(共編 2023 自治体研究社)など。

【執筆者・担当一覧】(所属は刊行時)

辻 浩 第1章、第2章1、第3章3 (まえがき・あとがき)
名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授

大村隆史 第2章2、第3章1
香川大学地域人材共創センター講師

二村玲衣 第2章3、第3章4
岐阜大学地域協学センター助教

竹井沙織 第2章4
名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属教育福祉研究センター研究員

徐真真 第2章5、第4章3
静岡大学国際連携推進機構学術研究員

王倩然 第2章6、補章2
筑波大学 URA 研究戦略推進室

山本紀代 第3章2
名古屋大学大学院教育発達科学研究科大学院生

岡庭一雄 第4章1
前長野県阿智村村長

細山俊男 第4章2
前社会教育・生涯学習研究所所長

佐藤友美 第4章4
クリエイティブ・リンク・ナゴヤ ディレクター

河野明日香 補章1
名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授

まえがき 課題と方法

第1章 国民の学習権保障と社会教育

1 「権利としての社会教育」の形成と構造

背景 社会教育政策の改変 内在的な矛盾 生存権的運動

2 生活構造の変容と社会教育

農村と都市の地域課題への科学的アプローチ
社会教育学習内容論の提起 「人間の解放」への社会教育

3 青年期教育の差別的構造と教育福祉

二つの青年期の変容 後期中等教育再編をめぐる拮抗 教育福祉の提唱と教育全体の改革

4 地方自治をつくる住民の学習と公務労働運動

自治体における市民運動と社会教育 公民館の現代化と市民大学構想

5 生涯学習の国際的動向と日本の社会教育

教育改革の原理としての生涯教育の提唱 人びとの解放に結びつく生涯学習

6 「国民の学習権保障と社会教育」の研究手法

形而上学批判と社会教育実践への注目 地域・職場の学習文化運動と学校改革 「市民自由大学」と「人権としての社会教育」

第2章 公民館報に見る住民がとらえた地域課題

1 公民館報と住民の学習

「村の新聞」としての公民館報 公民館報がとらえた地域課題（長野県阿智村『あちむら新聞』
長野県旧上郷村『かみさと』 東京都国立市『くにたち公民館だより』）

2 生活構造の変容と地域課題

農業経営の転換と産業誘致 商工業化と人材育

成 自然災害と公害からの復興

3 自治体の合併と民主的な地域づくり

時代の変化と新たな自治体づくり 公明選挙運動と民主的な政治への取り組み

4 経済成長下での子どもと若者の課題

子どもたちの学校生活の様子と中学卒業後の進路 子ども・若者への関心と教育政策への問題提起

5 女性の自立と地域課題への取り組み

新生活運動 保育事業 障がい児・者 婦人学級・婦人教室による学習活動 女性問題の自覚化

6 アジアの中で考える平和と人権

満蒙開拓という負の遺産に向き合う 原水爆禁止運動 高まる民主主義と自由への関心

第3章 教育福祉から見る青年期教育と家庭教育

1 粟島の海運・船乗り文化と青年期教育をめぐる地域変動

地域の伝統的な職業教育機関 高度経済成長期の地域変動 粟島海員学校の存廃論議と自治意識（香川県三豊市・粟島海員学校）

2 高校生の読書感想文と勤労青年の読書会

全国コンクールにおける高校生と勤労青年 社会教育における読書指導 青年期の読書指導の課題

3 東海地方における勤労青年学級と「青年の要求」の探求

四日市市 半田市 中川鉄工会青年学級 名古屋YWCAの生活クラブ「青年の要求」

4 地域誌『母と子ども』に見る母親と組織的活動

高度経済成長期の母親像 母親による社会運動とその波紋『母と子ども』岐阜県 活動する母親の思い

第4章 生活構造の変容と学習・文化活動

1 阿智村における生活構造の変容と自己教育運動

自治体合併と中学校建設 人口減少 工場誘致 公害 女性の働く意識 青年の集い 農業農民講座 労働運動 社会教育研究会

2 現代につなぐ山本慈昭の社会運動と社会教育

慈昭（1902-90）と満州開拓団 公民館建設と児童福祉 郷土史研究 中国残留孤児の肉親捜し運動 慈昭から引き継ぐ社会運動と社会教育 全村博物館構想

3 機関誌『女性教養』に見る女性の学び

財団法人大日本女子社会教育会の創設 『女性教養』 「主婦の生活きろく」から見る女性の葛藤 高度経済成長下に女性に求められた教養

4 産業技術への関心の高まりと企業博物館

企業博物館の萌芽期として的高度経済成長期 トヨタホール 東芝科学館 松下電器歴史館 松下電器技術館 浜岡原子力館 開拓使麦酒記念館

補章 「経済成長と社会教育」の比較研究試論

1 アジアの経済成長と社会教育・東南アジアと中央アジアを中心に

経済成長の光と影 ノンフォーマル教育 経済成長のうねりと社会教育の意義

2 中国の経済成長と高齢者学習

高齢化問題の出現 高齢者教育の振興と課題 社会高齢者教育の施策と展望 「養教連携」の実践 単身高齢者の学習団体の実践

高度経済成長期 社会教育関係年表

（1951～1975）

あとがき 索引

日本工業博物館史の研究

馬淵浩一 著

[大空社出版 2023年10月]

明治以降、幾度となく提案されてきた日本の「工業博物館」設立計画、しかし
いまだ実現されないのはなぜなのか？

本書を推薦します。

水嶋英治

長崎歴史文化博物館館長
日本ミュージアム・マネージメント学会会長



永年、博物館業務に従事してきた著者だからこそその視点をもって、膨大な史料文献・データ

を整理し鋭く歴史の核心に迫る。
科学技術・産業そして行政・教育の広範囲にわたる論究から、近代日本の文化・思想の課題があぶり出されてくる。

■本書の主な関連歴史事項

- 明治 39 (1906) ドイツ博物館 暫定的コレクション公開
- 明治 44 (1911) 愛知県商品陳列館 開館
- 大正 元 (1912) 「工業発達助長ニ関スル件」諮問
- 6 (1917) 機械学会「機械工業発達助長案」
- 7 (1918) 工学会「工業教育刷新案」
- 10 (1921) 「科学知識普及ニ関スル建議案」
- 13 (1924) 長岡高等工業学校 開校
- 14 (1925) 東京市電気研究所・電気博物館 開館
- 15 (1926) 長岡高等工業学校附属科学工業博物館 竣工
- 昭和 4 (1929) ミラー「科学及び工業の博物館」講演
- 7 (1932) 東京科学博物館別館(工業館) 仮公開
- 8 (1933) 日本工学会、工業博物館設立計画
- 10 (1935) 紀元二千六百年記念日本万国大博覧会 開設計画(万博協会)
- 39 (1964) 市立名古屋科学館 全館開館



A5判・並製・265頁・カバー

ISBN978-4-86688-236-9

定価(本体 3,500円 + 税)

【著者】(まぶち・こういち)

現在、名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属生涯学習・キャリア教育研究センター研究員、名古屋工業大学大学院および放送大学非常勤講師。博士(工学)。1957年、名古屋市生まれ。2021年3月、名古屋市科学館(主任学芸員)退職。

(目次抄 *詳細目次はホームページに掲載)

序 章 西欧における工業博物館の歴史 / 研究の問題意識

第一部 明治政府の博物館政策と地方行政府による陳列所の展開(明治)

- 1 殖産興業と明治の博物館政策 工芸博物館設立計画の阻却
博覧会と博物館の黎明: 試行的なコレクション形成 / 上野の博物館: 歴史・美術博物館への傾斜
- 2 手工業から工場制工業への転換を促した愛知県商品陳列館と県下の織物業
陳列所と工業博物館 / 山口貴雄の運営方針 / 愛知県の工業

第二部 試験研究機関と高等工業学校に附属した工業博物館(大正)

- 3 東京市電気研究所附属電気博物館の設立と文部省による博物館政策の変化
科学博物館・理化博物館を求める声の高まり
- 4 長岡高等工業学校附属科学工業博物館による地域の機械工業支援

第三部 ドイツ博物館の紹介と工業博物館設立運動(昭和・戦前)

- 5 機械工学者らの唱導による工業教育改革運動と東京科学博物館の設立
東京博物館から東京科学博物館へ / ドイツ博物館の情報の入手とその動機
- 6 日本工学会による工業博物館設立計画
- 7 紀元二千六百年記念日本万国博覧会を契機とした工業博物館設立計画
博覧会開催の要望から中止に至る政治過程 / 東京科学博物館の拡張計画への転換

第四部 戦後の工業博物館設立運動とその変容(昭和・戦後)

- 8 清水勤二の唱導による市立名古屋科学館の設立 科学技術振興と工業博物館
- 9 1960~1990年代の科学館の変化 工業博物館からの離反

終 章 なぜ工業博物館が設立されなかったのか / 工業博物館の実現に向けて

引用・参照文献一覧 索引

* 図表 54点収録

各種変遷・概要・分類・数量データから
組織・人物略歴・社会背景を明解に提示

近代社会教育における 権田保之助研究

娯楽論を中心として

坂内夏子 著

[大空社出版 2019年8月]

「民衆娯楽研究の第一人者、 権田保之助」を

[ごんだ・やすのすけ 1887-1951]

「社会教育」の観点から読み直す。

大原社会問題研究所所員、文部省・厚生省専門委員嘱託として、関東大震災を挟み大正から昭和戦中期、数々の娯楽調査・社会調査（家計、労働、農村、学生、映画、月島・浅草等々）に関わり、今日に残る実証的研究・記録を残した。

- ・娯楽は本来「民衆主体」の生活創造としてある。
- ・「民衆娯楽」は権力が政策として方向付けるものではない。
- ・(震災からの)復興のバロメーターを民衆の娯楽要求に見る。



A5判・並製・206頁・カバー
978-4-908926-63-1

定価(本体 3,000円 + 税)

【著者】(さかうち・なつこ)

現在、早稲田大学教育・総合科学
学術院教授。博士(教育学)2003
年。研究分野:社会教育・生涯学習。

「キーワード」 社会教育 社会調査 民衆大衆 労働(者) 社会主義 プロレ
タリアート・インテリゲンチヤ 都市と地方・農村 職業工場 産業世相 娯
楽・余暇・慰安 レクリエーション 生活創造 施設 活動写真 放送・ラジ
オ興行 寄席 流行歌 学校教育・制度 保健衛生 知識階級 文化主義 芸
術・美学 伝承娯楽 青年・学生 子ども 家庭・家計生活 娯楽費 行政・政策・
統制 関東大震災 復興 イギリス ドイツ 戦時体制

(目次抄 * 詳細目次と権田略歴はホームページに掲載)

序論

第1章 美術工芸論と民衆娯楽の着想

- 1 美術工芸論
美術評論活動 / 美術工芸運動への注目 / 美術工芸論の構築
- 2 民衆娯楽問題認識
活動写真への注目 / 民衆娯楽の着想と形成
- 3 社会改造の視点
資本主義社会体制への問い / 社会教育への注目

第2章 学問の形成と視点

- 1 民衆文化論争における位置
論争の周辺 / 権田の主張
- 2 批判の姿勢
社会主義観 / ウィリアム・モリス / 民衆観 / 学校教育制度批判
- 3 概念主義への批判
文化主義への批判 / 知識階級への批判
- 4 学校万能主義への批判
知識偏重教育の批判 / 都会と地方民衆娯楽
- 5 社会的事実追究の姿勢
民衆娯楽の諸相 / 権田の世相観
- 6 民衆教育構想
民衆教育論 / 社会的側面 / 大衆娯楽と民衆教育

第3章 娯楽論の展開

- 1 民衆娯楽論
「娯楽なき人生」の体験 / 娯楽三定説の批判的検討 / 「生活創造と
しての娯楽」の提唱 / 生活像の模索
- 2 国民娯楽論
民衆娯楽から国民娯楽への過渡 / 余暇観・労働観 / 大衆性と指導性
の関係 / 民衆娯楽の解体

第4章 娯楽問題の追究と「娯楽公営化」構想

- 1 農村娯楽問題への注目
地方への関心 / 農村娯楽への問題認識 / 地方文化の追究
- 2 労働者娯楽問題への注目
労働者娯楽に対する問題認識 / 労働者のための家庭娯楽論
- 3 学生娯楽問題への注目
学生娯楽問題調査 / 青年と民衆娯楽
- 4 民衆生活における娯楽の成立
民衆娯楽対策 / 事実としての民衆娯楽
- 5 娯楽至上主義の視点
娯楽に関する問題意識 / 娯楽の普及
- 6 民衆娯楽問題と社会教育
- 7 「娯楽公営化」構想
社会対策と映画 / 教育映画

結論

権田保之助略年譜・著書・参考文献 索引

日本における女子体育教師史研究

掛水通子 著 978-4-908926-32-7 (2018年2月刊) A4判・並製・500頁・カバー 定価(本体16,667円+税)

同じ女子教師であっても、女子体育教師のみが女子教師からも体育教師からも差異化されてきた理由は何か？ 男女共修・男女共同参画時代における女子体育教師の役割をどのように位置づけるか… 近現代日本の女子体育教師史の全体像を膨大なデータをもとに詳細に跡づけ、今日的課題に迫る大著。統計・調査記録・年表等 図表約250点収載

絆を伝えるソーシャルワーク入門

社会福祉・児童家庭福祉・相談援助のサブテキスト

宮武正明 著 978-4-908926-39-6 (2021年2月 三訂版) A4判・並製・222頁 定価(本体2,100円+税)

福祉の現場でさまざまな課題に取り組んできた著者が自らの豊かな体験を次世代につなぐ実践の書。対人社会サービス、社会福祉援助の実践活動に今すぐ役立ち、つねに手元に置きたい「生きたテキスト」。(内容) 社会福祉 / 児童家庭福祉 / 相談援助 (保育相談支援) / 福祉と教育 (子どもの貧困) / 保育・福祉・教育の現場に求められること

雑誌『養護 / 学童養護』

全9巻・別巻1

復刻版編集 瀧澤利行・七木田文彦

- 今日につながる多彩で重要なテーマを多数収載
- 時代と歴史の証言となる活動・調査記録・法令等を豊富に収載

原誌

『養護』 第1～5巻・全50冊
昭和3年11月～7年12月
『学童養護』 第6～10巻・全60冊
昭和8年1月～12年12月

発行・帝国学校衛生会(文部省構内)



A5判・上製・クロス装・総約5700頁

別巻

雑誌「養護」の時代と世界
学校の中で学校看護婦はどう生きたか

(執筆 瀧澤・七木田・竹下智美) 総400頁
付: 雑誌「養護」「学童養護」(全110号)
総目次・索引(人名・機関名・事項)

全9巻・別巻1セット 978-4-283-01021-5
揃定価(本体208,600円+税)

第1回(第1～4巻) 揃定価(本体90,000円+税) 2014.1刊
第2回(第5～9巻) 揃定価(本体110,000円+税) 2014.6刊
第3回(別巻) 定価(本体8,600円+税) 2015.3刊

*お問い合わせ、お申し込みはこちらへ。
(専売) 国内販売元

 **パンセ**
学術図書販売(株)

TEL 078-945-7835 FAX 078-945-7886 E-Mail: contact@tosho-pensee.com

学術資料出版
大空社出版
www.ozorasha.co.jp

・お取扱い

eigy@ozorasha.co.jp
TEL:03-5963-4451 FAX:03-5963-4461
東京都北区中十条4-3-2(〒114-0032)